平成２４年（ワ）第３６７１号外　大飯原子力発電所運転差止等請求事件
原　告　　竹本　修三　　外
被　告　　国　　外１名

証拠説明書

甲６６１～６６４号証（赤松反対尋問関連）
破砕帯が地震波を増幅させることについての論文

２０２５年（令和７年）８月６日

京都地方裁判所 第６民事部合議はＢ係　御中

原告ら訴訟代理人
弁　護　士　　中　島　　晃

同　　渡　辺　輝　人
外

原告らは下記のとおり証拠について説明する。

記

号証	証拠の標目（原本・写しの別）		作成年月日	作成者	立証趣旨
661	山﨑断層破砕帯の遠地地震表面波に対する応答特性（京大防災研年報第25号B-1p101～）	写し	1982年	谷口慶祐・尾池和夫	反対尋問に答えて赤松先生が「破砕帯があることによって、その周りの地盤振動特性が変わるということは、観測事実として、私の観測ではありませんが、そういう論文がたくさんあります」と述べたことに関連して（39～40頁）、その論文の一部を提出するものである。 遠地地震の表面波による地盤のひずみは、破砕帯をまたぐ区間のひずみはそうでない区間のひずみに比べて、ひずみ振幅が大きく、このことが長周期表面波で顕著に見られたこと。

662	山崎断層破砕帯のＳ波に対する応答特性（京大防災研究所年報第29号Ｂ-1p49～）	写し	1986年	谷口慶祐・尾池和夫	（下線部同） 近地地震のS波による地盤のひずみは、破砕帯をまたぐ区間のひずみはそうでない区間のひずみに比べて、ひずみ幅が大きいことが判明したこと。
663	断層破砕帯における地震波の増幅作用（京都教育大学紀要Ser.B,№.91p1～）	写し	1997年	谷口慶祐・尾池和夫・平野憲夫・大石泰賀	（下線部同） **近地地震による地震動は、断層破砕帯を挟んだ場合の振幅は，破砕帯を挟んでいない場合の振幅の約5～15倍となっており，断層破砕帯において地震波が増幅されることが明らかになったこと。**
664	断層破砕帯での特有の動き（京都教育大学紀要Ser.Ｂ,.95/96p31）	写し	2000年	谷口慶祐	（下線部同） 有限要素法を用いて破砕帯による地震波の振幅の増幅を解析したところ、破砕帯の深さが大きくなるほど破砕帯での振幅の倍率は大きくなり，破砕帯の幅が狭いほど急激に大きくなることが分かったこと。**大飯のように、幅が１ｍ程度、深さ数十ｍの破砕帯でも、大きい増幅作用のあることを示している。**

以上